

2 小 学 校

児童数 59,145 人で減少
不登校の人数は減少

表 4 小学校の推移

(単位：校、級、人、%)

年度	A 学校数	B 学級数	C		D		1学級当たり		本務教員1人当たり		女子教員 の占める 割合
			児童数	対前年度 増減率	教員数 (本務者)	対前年度 増減率	児童数 C/B	対前年度 増減数	児童数 C/D	対前年度 増減数	
平成18	211	2,448	61,441	0.6	3,669	△1.0	25.1	0.3	16.7	0.2	69.1
19	210	2,435	61,048	△0.6	3,662	△0.2	25.1	0.0	16.7	0.0	68.7
20	206	2,454	61,135	0.1	3,667	0.1	24.9	△0.2	16.7	0.0	68.5
21	204	2,445	60,459	△1.1	3,679	0.3	24.7	△0.2	16.4	△0.3	68.2
22	203	2,430	59,870	△1.0	3,700	0.6	24.6	△0.1	16.2	△0.2	68.2
23	201	2,432	59,145	△1.2	3,717	0.5	24.3	△0.3	15.9	△0.3	67.5
国立	1	12	476	0.4	18	0.0	39.7	0.2	26.4	0.1	33.3
公立	200	2,420	58,669	△1.2	3,699	0.5	24.2	△0.4	15.9	△0.2	67.7

(1) 学校数

学校数は前年度より2校減少(新設2校、廃校4校)し、201校(本校201校)となり、このうち休校は3校であった。

設置者別にみると、国立が1校、公立が200校となっている。

市町村別では、富山市66校、高岡市28校、射水市15校等となっている。

学級数別学校数をみると、7学級の学校が29校(構成比14.4%)で最も多くなっている。

学級規模別学校数では、11学級以下(小規模校)が100校(構成比49.8%)、12~18学級(標準校)が66校(同32.8%)、19学級以上(大規模校)が35校(同17.4%)となっている。(表4、統計表17、26)

(2) 学級数

学級数は2,432学級で、前年度より2学級増加した。

編制方式別にみると、単式学級が2,103学級(構成比86.5%)、複式学級が27学級(同1.1%)、特別支援学級が302学級(同12.4%)となっている。(表4、統計表18)

(3) 児童数

児童数は59,145人(男子30,228人、女子28,917人)で、前年度より725人(1.2%)減少した。これは、ピーク時(昭和33年度、159,700人)の37.0%となっている。

学級編制方式別にみると、単式学級児童が58,127人、複式学級児童が270人、特別支援学級児童が748人となっている。

市町村別では、富山市23,230人、高岡市9,060人、射水市5,580人等となっている。対前年度増減数をみると、富山市172人(0.7%)、氷見市139人(5.3%)、高岡市112人(1.2%)など13市町村で減少している。前年度より増加したのは、砺波市75人(2.5%)、魚津市6人(0.3%)の2市であった。

1学級当たりの児童数は24.3人（前年度24.6人）で、全国の24.9人を下回っている。
 本務教員1人当たりの児童数は15.9人（前年度16.2人）で、全国の16.4人を下回っている。
 （表4、5、統計表19、29）

表5 男女別及び学年別児童数の推移

（単位：人）

年度	計	男子	女子	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年
平成18	61,441	31,356	30,085	10,173	10,117	10,164	10,329	10,079	10,579
19	61,048	31,238	29,810	10,125	10,186	10,123	10,187	10,341	10,086
20	61,135	31,179	29,956	10,168	10,128	10,201	10,121	10,174	10,343
21	60,459	31,027	29,432	9,673	10,152	10,132	10,205	10,121	10,176
22	59,870	30,613	29,257	9,586	9,680	10,151	10,126	10,210	10,117
23	59,145	30,228	28,917	9,327	9,594	9,704	10,151	10,145	10,224

（4）教員数及び職員数

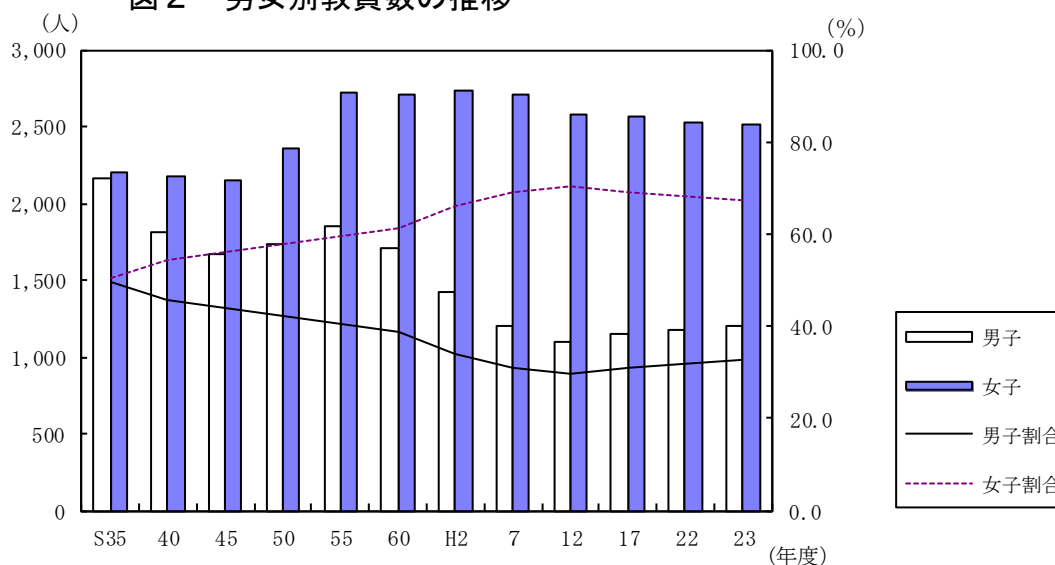
教員数（本務者）は3,717人（男子1,207人、女子2,510人）で、前年度より17人（0.5%）増加した。教員総数に占める女子教員の割合は67.5%となっている。

職員数は875人で、前年度より21人減少した。（表4、6、図2、統計表20、21、34）

表6 男女別教員数 （単位：人）

年度	計	男	女
平成18	3,669	1,135	2,534
19	3,662	1,146	2,516
20	3,667	1,155	2,512
21	3,679	1,170	2,509
22	3,700	1,178	2,522
23	3,717	1,207	2,510

図2 男女別教員数の推移



(5) 長期欠席者数

平成 22 年度間の 30 日以上の長期欠席者数は、平成 21 年度間より 38 人 (11.5%) 多い 368 人で、理由別では「不登校」が 187 人 (構成比 50.8%) で最も多く、次いで「その他」が 114 人 (同 31.0%)、「病気」が 64 人 (同 17.4%) となっている。

全児童数に占める長期欠席者の比率は、全国より 0.14 ポイント低い 0.61% で、低い順に全国第 16 位 (前年度第 10 位) であった。

また、全児童数に占める「不登校」の比率は、全国より 0.01 ポイント低い 0.31% で、低い順に全国第 24 位 (前年度第 26 位) であった。

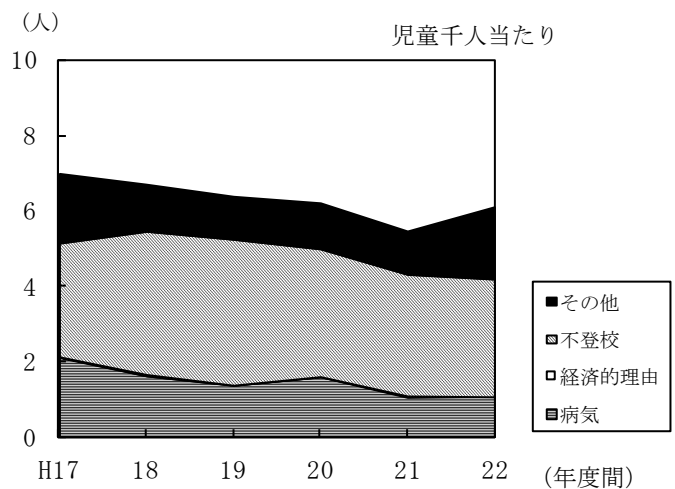
(表 7、8、図 3、4、統計表 23)

表 7 理由別長期欠席者数 (単位：人)

年度間	総数	欠 席 理 由			
		病気	経済的 理由	不登校	その他
平成17	426	129	1	184	112
18	411	99	3	233	76
19	389	83	1	236	69
20	379	97	1	207	74
21	330	63	3	195	69
22	368	64	3	187	114

注) 「その他」には、「欠席理由が2つ以上(「病気」と「不登校」など)あり主たる理由を特定できない者」や「保護者の無理解・無関心から欠席している者」が含まれている。

図 3 長期欠席者の理由別推移



$$\text{児童千人当たりの長期欠席者数} = \frac{\text{各年度間の長期欠席者数}}{\text{各年5月1日現在の児童数}} \times 1000$$

表 8 全児童数に占める不登校の比率

(単位：%)

年度間	富山県	全 国
平成17	0.30	0.32
18	0.38	0.33
19	0.39	0.34
20	0.34	0.32
21	0.32	0.32
22	0.31	0.32

$$\text{比率} = \frac{\text{各年度間不登校の欠席者数}}{\text{各年5月1日現在児童数}} \times 100$$

図 4 長期欠席者の推移

